

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2013年3月NO.30

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

4

ビンゴ

日本でもおなじみの「ビンゴ」は、フィリピンでも人気のゲームです。フィリピンの子どもたちは何枚ものカードを同時に使って、石を置いて遊んでいました。出た数字を見つけるために、集中!



写真: センター30(ギマラス州ブエナビスタ)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

あの子たちは今…

～ チャイルドたちのその後 ～

～チャイルドたちのその後～

■ ジョワナ (25歳)

私は小学校3年生からハイスクール卒業まで8年間チャイルドでした。両親には大学の学費を払う経済力はなく、私は働きながら大学に通いました。それを知った教授のひとりが、教授宅の家事を手伝う代わりに授業料を出してくださり、無事に卒業し、教員資格も取ることができました。



学校の事務室に勤務



家族とともに。夫も元チャイルドでした。

チャイルドのときのことで一番心に残っているのは、全センターのチャイルドの代表が参加した「子ども会議」です。そこで多くの友だちができました。スポンサーのタバタさんへのお手紙を書くこともすごく楽しみでした。スポンサーシップ・プログラムによって、家族と共に困難に立ち向かっていく勇気をもつことができました。

■ ジェネシラン (20歳)



ジェネシランは夫と2人の子ども(2歳と1歳)と暮らす。夫はトライシクル(側車付きの3輪オートバイ)の運転手。

私は家庭の事情もあり、ハイスクール3年の時に学校を辞めましたが、小学校2年生から7年間、スポンサーシップ・プログラムに参加しました。一番嬉しかったのは、毎週土曜日の「青年会」の活動。同じ年代の仲間と、家族のことなどいろいろな悩みを語り合って、気持ちが軽くなったり、前向きになることができました。センターのスタッフも親身に相談にのってくれました。

自分を大切にすることを学んだから、母親になった今、子どもたちにイライラしたりせず、しっかり接することができるのだと思います。これもスポンサーシップ・プログラムが与えてくれた贈りものです。

「スポンサーのハマダさんには本当に感謝しています。勉強を続けられただけでなく、人間としての価値感を形成することができました。」



家の前で、夫と娘と

※ハマダさんは1979年、ご自身のお子様が無事に誕生したことに感謝して、フィリピンのチャイルドの支援を始めてくださいました。現在4人目のチャイルドを支援中です。

元チャイルド(年齢順)	支援期間
エドモンド (30)	1997～2001
ビリヤリン (28)	1997～2001
ジョワナ (25)	1997～2005
アンヘロ (25)	1998～2004
ジェリック (24)	2002～2006
アルフィ (23)	2004～2006
アンジョ (22)	2002～2007
ラルベルビン (22)	2002～2006
シェナメイ (22)	1996～2007
ノベマルク (22)	2003～2006
マルク アントニ (21)	2000～2008
ジェネシラン (20)	2000～2007
ロドニイ (19)	2007～2009
マーク (19)	2006～2010
ジュリウス (17)	2010～2011

1975年からフィリピンで実施しているスポンサーシップ・プログラムにより、これまで2万人を超えるチャイルド(里子)たちが支援から自立し、それぞれの道を歩んでいます。「支援を離れたチャイルドたちはどうしているだろう?」「大学で勉強したいと言っていたけれど、夢はかなったかな?」「ハイスクールを中退したけど、貧しい中で苦勞してはいないだろうか?」かつてつながっていた子どもたちに、今でも心を寄せてくださるスポンサーの方がいらっしゃいます。

チャイルド・ファンド・ジャパンが現在支援するフィリピン18カ所の協力センターに、かつてのチャイルドたちの様子をたずねました。

■ アンヘロ (25歳)



ぼくは、ハイスクール4年になったときに、成績が下がったことや、病気になったことで学校を続けるのが嫌になって退学してしまいました。1年間家にいましたが、その間に将来のことを考えて教育の大切さに気づき、復学しました。がんばってハイスクールを卒業し、今は農業をしています。家族は妻と2人の子ども
チャイルドだったときに一番楽しかったのはスポーツ大会。スポーツを通して、仲間や家族との結束の大切さを学びました。

支援を離れた理由	現在
卒業	工場の労働者
卒業	主婦
卒業	学校事務 (欠員による教員募集を待っている)
ドロップアウト	農業
卒業	メンテナンスエンジニア
卒業	ホテルの清掃係
ドロップアウト	長距離バスの車掌
卒業	市長の秘書
卒業	小学校の教員
ドロップアウト	復学し ハイスクールで勉強中
卒業	衣料品店の販売員
ドロップアウト	雑貨屋(サリサリストア)
卒業	大学で勉強中
卒業	自動車整備、 カラオケ店での機械操作
家族を助けるため 働くことを希望	父親と話し合い、 ハイスクールに復学

■ アンジョ (22歳)

15歳のころ、ぼくは仲間の誘惑に勝てず、ビリヤードなどの賭け事をして過ごすようになり、留年して中退しました。両親は激怒しました。ぼく自身も「スポンサーが支援してくださっていたのに、それをムダにしまった」と後悔し、自力で復学しました。夜や週末に波止場で荷役のアルバイトをしながら、学費を稼ぎました。勉強も頑張り、クラスの副委員長に選ばれるまでに級友の信頼を得ました。両親も徐々にぼくのことは見直してくれたと思います。



サマーキャンプの参加賞は大切に取ってある。演劇で、「ベスト俳優」に選ばれた時の感激は今でも忘れない。

こういう風に頑張れたのは、スポンサーシップ・プログラムの活動で、人とかかわることを学んだからだだと思います。特にサマーキャンプでの演劇活動は、「ぼくはダンスが好きなんだ」と気づかせてくれ、自信につながりました。今も地域のラップダンスグループのまとめ役をしています。村のイベントでパフォーマンスを頼まれたりしているくらい、実力のあるグループなんですよ。



「スポンサーのタカタさん、ハイスクールを中退し、失望させてしまったこと、申し訳なく思っています。でもその後卒業し、今は働いて家族の生活を助けています。タカタさんのおかげで頑張ることができました。本当にありがとうございます。」

ご支援くださっていたタカタさんに、現在のアンジョの活躍ぶりをお伝えしたところ、次のメッセージをいただきました。

本当に嬉しい。アンジョが留年した時、「学校を卒業することで将来の道が開けるから、がんばって」と励ましの手紙を書き、彼は「がんばる」と返事をくれました。が、結局続かず、中退してしまいました。チャイルドたちの生活は私たちが想像もできないほど過酷だろうと思いますが、せつかく支援しているのになぜ? と、心が弱くなってしまいます。けれども、支援が「形」になってほしいと考えてしまうのは高慢なのだと思います。彼には、「よく頑張ったね。定収入を得るのは大変だろうけれど、健康に気を付けてね。あなたががんばっている姿は、私たちの希望です」と伝えたい。

こんな元チャイルドたちも…



多くの子どもたちが憧れる船乗りになった**ベンジー(26)**は、「毎年のサマーキャンプが楽しかった。プログラムの中で、自分を大切にすること、夢を持つことなどを学んだ。スポンサーはぼくの人生に成長の種をまいてくださった。」

ノエル(24)はハイスクール卒業後、職業訓練校に進み、電気技術者として修理屋に就職できた。チャイルド時代の一番の思い出は、「勉強の苦手だった他のチャイルドの個別指導係を任されたこと。他の人の力になれて嬉しかった。」



ジャネル(20、写真右)はハイスクール卒業後、奨学金を得て大学の教職課程を終えた。現在は地元の私立小学校で教え、3人の弟たち(写真)の教育費を出している。

地元のコンビニエンスストアで働く**ジョンアレス(21)**。「センターの活動すべてを通して、自分のこと、将来のこと、家族のことを考えるようになった」と振り返る。



村の小学校で教える**アモール(21)**は、「センターの活動では、学校で学べない知識や技術をたくさん身に付けることができた。サマーキャンプで教わったTシャツプリントはとても楽しかった」と振り返る。

エデル グレース(29、写真右)は10人きょうだいの中でただ一人、ハイスクールを卒業できた。結婚相手は同じくチャイルドだった**マーティン(26、写真左)**。「自分たちの子ども、学校に通えるよう親としての責任を果たしたい。日本のスポンサーが私たちの人生の一部であることを伝えていきます。」(写真は結婚式当日)



マルロン(28、写真中央)はハイスクール2年生で中退したが、その後復学し、今は助産師を目指して研修中。「困っている人を支える、という人生観を、スポンサーから学びました。」家族は妻と娘。



ここでも元チャイルドが活躍しています!

エルリン(29)は、日本で生活するフィリピン人やダブルの子どもたち(多文化を背景に生まれた子どもたち)をサポートするため、CTIC*で働いています。来日して日本語研修を受けている間に東日本大震災も経験しました。チャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフがエルリンと「再会」したのは、2011年5月、CTICが中心となり、被災したフィリピン人を支援する活動が行われた岩手県の大船渡カトリック教会でした。



宮城県気仙沼市で被災者の話を聞くエルリン(提供写真)

「チャイルドだったころ、センターのプログラムで一番役に立ったのは、自己啓発プログラム**でした。自分に自信を持つことができましたからです。」とエルリンは言います。エルリンの希望は、「日本にいたる間に、私を支援して下さったスポンサーにお会いして、感謝の気持ちを伝えること」です。

かつて自分が受けた支援を、エルリンは「日本で生活するフィリピンの人たち」に順送りで恩返ししています。

*カトリック東京国際センター／日本に滞在する外国人をサポートするためにカトリック東京大司教区により設立

**自己啓発プログラム／描画、演劇、話し合いなどの様々な活動を通して、自分の存在の価値に気づき、家族や身の回りの人びととの間で、その人たちと積極的、建設的な関係を作り上げていく価値観を持つことを目的としています。

ご支援の成果

フィリピンの小学校卒業率が全国平均72%であるのに対し、チャイルドたちは84%が小学校を終えています。ハイスクールでは全国平均74%を大きく上回る92%が卒業しています。

しかしスポンサーの皆さまからのご支援は、学校の勉強のためだけではなく、経済的に豊かではない地域では、子どもたちがレクリエーションを楽しんだり、才能を伸ばしたりできる機会がきわめて限られています。そのような中、センターでの活動はチャイルドたちにとって貴重な経験となります。元チャイルドたちは、「センターの活動によって、精神的にも成長できた。支援が人間形成の原点になっている」と口をそろえて語っています。

また、たとえ卒業できなくても、「スポンサーの支援によって勉強の大切さを知った」と多くの元チャイルドたちが振り返っています。一度退学したチャイルドたちが復学していることは、スポンサーシップ・プログラムの支援の成果に他なりません。支援を受けたチャイルドたちが得たものは、その後の人生の糧となり、大切な指針となっています。

緊急・復興支援事業の完了に向けて

2011年3月11日(金)の東日本大震災の発生を受けて、チャイルド・ファンド・ジャパンは、3月16日(水)に緊急支援物資を福島県南相馬市にお届けすることから緊急・復興支援事業に着手しました。その後も多くの方々から支えられ、岩手県を中心に、仮設住宅団地のコミュニティ形成、子どもの生活充実、こころのケアとグリーンワークを柱とする緊急・復興支援事業に携わってきましたが、2013年3月末をもって事業を完了します。現在、被災地での支援プロジェクトを実施しつつ、報告書の作成と記録映像の制作に取り組んでいます。

報告書

東日本大震災の概要、写真を多用した緊急・復興支援活動の報告、私たちが事業から学んだこと、から構成されます。さらに、ベイン・アンド・カンパニー*が、社会貢献活動の一環として、チャイルド・ファンド・ジャパンの復興支援活動の効果検証と総括のための評価をしてくださっており、この評価が報告書の大切な構成要素となります。

記録映像

「笑顔をつないで」の撮影と編集が進行中です。制作を手掛ける「暮らしの映像社」の鈴木浩ディレクターに、お話を伺いました。

この作品の見どころは、被災地の方々の笑顔です。仮設住宅団地で暮らす女性から聞いた、「津波は悪いことだけを運んだんじゃないんですよ。津波がなければ出会うこともなかった人たちと、この仮設で友だちになれたんだもの」という言葉を忘れることができません。「つらい状況の中にも幸せの種を見つける」、そんな前向きな生き方をお伝えできるよう、制作しています。



*ベイン・アンド・カンパニーは、現在世界31カ国に48拠点のネットワークと約5,400名を擁する、世界有数の戦略コンサルティングファームです。クライアントとの共同プロジェクトを通じた結果主義へのこだわりをコンサルティングの信条としており、結果主義の実現のために高度なグローバル・チームワーク・カルチャーを特徴としています。(説明文は同社提供)
<http://www.bain.com/offices/tokyo/ja/>

報告会と感謝会のお知らせ

事業を完了するにあたり、東京では活動報告会を、岩手では活動感謝会を開催します。報告会では、「We are with you! -私たちはどうつながったか?」と題して、事業を担っているスタッフに加え、ボランティアなど様々な形で協力して下さった方々にも参加いただき、活動を振り返りながら被災地の現状や課題について話し合います。

「ありがとう大船渡」と題した感謝会では、私たちを受け入れて下さった地域の方々にご報告とお礼を申しあげると共に、地域のつながりをより強化するプログラムを企画しています。

■活動報告会(東京)

〈日時〉
3月16日(土)
14:00~17:00
〈会場〉
渋谷ヒカリエ 11F
カンファレンス
Room1104(60名定員)



■活動感謝会(岩手)

〈日時〉
3月20日(水:祝日)
13:00~17:00
〈会場〉
大船渡市民文化会館
(リアスホール)
マルチスペース



いずれの会も、事前申し込み不要・参加費無料。

来場者には上記の報告書と記録映像「笑顔をつないで」のDVDを差しあげます。ぜひ、ご参加ください。

当日、おいでになれない方で活動報告書と記録映像をご希望される方は、募金グループまでお問い合わせください。

電話 / 03-3399-8123

FAX / 03-3399-0730

メール / childfund@childfund.or.jp

スリランカから vol.14 アーユボーワン



アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

スパイスで一息:シナモン

心も体もほっこりするシナモンティーやカプチーノ、アップルパイなどに欠かせないシナモン。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援するチャイルドたちが暮らすスリランカは世界有数のシナモンの産地です*。

シナモンは、クスノキ科常緑樹の樹皮をはぎ取って乾燥させたもので、スリランカの食文化には欠かせないスパイス。カレーはもちろん、様々な家庭料理やお菓子にシナモンの香りと甘味が活かされています。

シナモンをたっぷり使った軽食をご紹介します。ぜひお試しください! シナモンには体を温めたり解毒する効果があるので、寒い冬には風邪予防にも最適です。



●パンケーキ (写真左)

ココナツを細かく割いたココナツシュレッド、砂糖、キトウルシロップ(ヤシ科のキトルヤシの花から採る蜜)を煮詰め、シナモンとカルダモンで香りづけしたものをクレープ風の生地包みます。軽やかな口当たり、しかも小ぶりなので何本でも食べられます! スリランカでは家庭で作るほか、店でも「Pan Cake」として売られています。(写真奥はスリランカから直送されたシナモンスティックの束)

●シナモンティー

紅茶とシナモンスティックを砕いたものを一緒に入れます。スリランカ産のシナモンは甘みが特徴。砂糖なしでも口にまろやかな香りと甘みが広がります。(紅茶2杯分に対し、使うシナモンスティックは約1cm分)



* 厳密に「シナモン」と呼ぶのはスリランカ産のものだけで、ベトナムや中国のものはカシア・シナモンと呼ばれています。【朝岡勇・朝岡和子著、「スパイス名人宣言」(雄鶏社)より】

取材協力/ キッチン&カフェ キリパニ
<http://www.kiri-pani.com/>

東京都武蔵野市吉祥寺東町2-38-15 (吉祥寺駅から徒歩12分、東京事務所から自転車で5分)

ネパールから ナマステ! vol.10



ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

「ネパールの子どもたちに会って」

チャイルド・ファンド・ジャパン
監事 奥澤行雄

この度、監事として事業を視察するためネパールに出張してまいりました。首都カトマンズから陸路で東へ約200キロ、支援地域のラメチャップ郡を訪ねました。美しいヒマラヤの麓ですが、険しい山つづきで耕作地は少なく、決して豊かではありません。そこで8人もの子どもさんの家庭を訪問しました。その家に暮らすチャイルドが奥から大切そうに持ち出したものはスポンサーさんからの手紙でした。人なつこい大きな目を輝かせながら、「お元気ですか?」と始まる手紙を大きな声で嬉しそうに読んでくれました。



チャイルドの月例会集に参加した奥澤監事(左奥中央)

また、チャイルドの月例会集を見学することもできました。菩提樹の木陰に20人ほどの子どもたちが円陣に座り、スタッフの話静静地に聞いていました。間もなく始まる大きなお祭りを前にして、親から何を買ってもらおうか尋ね



スポンサーさんからの手紙をチャイルドに見せてもらう奥澤監事

ながら、君たちよりもっと貧しい人もいることを忘れないでね、と諭すような話でした。先ほどのチャイルドのお母さんには別の処でも会いました。母親や父親が集まって「子どもの権利条約」の勉強会をしていました。子どもには健やかに成長する権利があること、教育を受ける権利があることなどを分かりやすく学んでいました。チャイルド・ファンド・ジャパンの活動によって子どもたちが生き生きと輝いている姿を肌身に感じる事が出来て感謝しています。

緊急支援 フィリピン台風被災者復興支援プロジェクト

昨年12月4日にミンダナオ島東部を直撃した台風24号(フィリピン名Pablo)は、死者・行方不明1,500人以上、避難者数13万人という大きな被害をもたらしました。最も被害が集中したコンポステラバレー州ニューバタアン町(人口約47,000人)は、1995年から2005年までスポンサーシップ・プログラムにより支援していた地域(センター20)で、419人が死亡、113人が行方不明です。(朝日新聞朝刊2012年12月25日)

このニューバタアン町では、スポンサーシップ・プログラムによる支援の成果のひとつである住民組織(GROW: Grass Roots Organization for the Welfare of Children)が、支援終了後も子どもたちの支援に加えて、地域の生活改善に活躍しています。

チャイルド・ファンド・ジャパン、当時のパートナー団体DMSF-IPHC(ダバオ医科大学プライマリーヘルスケア研修所)、そして住民組織GROWの三者は協力して、120名の子どもたちへのこころのケアと100世帯の住宅再建支援を中心とする復興支援プロジェクトを開始しました。現在、緊急募金を実施しています。ご協力くださいますようお願い申し上げます。(8頁、インフォメーションコーナーを参照ください。)



壊れた鉄筋コンクリート住宅が被害の大きさを示している



支援物資配給には長蛇の列が

写真提供: DMSF-IPHC

支援プロジェクト 情報 26

子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

- 協力期間: 2011年4月1日～2016年3月31日
- 支援対象: ラメチャップ郡の3カ村の公立16校(小学校と中学校)に通う生徒(約2,800人)と保護者、教員(103人)、学校運営委員会のメンバー(152人)、PTAのメンバー(151人)
- 協力団体: RBPW (Ramechhap Business & Professional Women)

* ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

【フィリピン】
・子どもが読書に親しむプロジェクト

【ネパール】
▶ 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

このプロジェクトの活動の1つとして、ラメチャップ郡ラメチャップ村のブメタン小学校に1棟3教室、スカジョール村のセティデビ小学校に1棟2教室の建設を支援をしました。昨年5月から村人総出で工事が始まり、12月に完成しました。12月26日に行われた完成式には、ネパール事務所の田中所長が参加し、校長が収支報告を行い、建設に大きな貢献をした多くの住民一人ひとりに感謝状を手渡しました。総工費は2校で約150万円となりますが、そのうち約3割は保護者のみならず地域住民からつづいた寄付で賄いました。建設作業を進めるなかで、保護者の間に「子どもの教育はまず親の責任」という自覚が生まれ、学校運営への関心の高まりがみられました。



完成したセティデビ小学校校舎



子どもや地域の人々が参加した完成式典



山間にあるブメタン小学校。右半分が今回の新築部分

インフォメーション コーナー

お願い フィリピン台風被災者復興支援プロジェクト 緊急募金のお願い

台風で被災した経験がトラウマになってしまう子どもたちがいます。被災地では自宅が壊され、今も途方に暮れている人々がいます。チャイルド・ファンド・ジャパンは、子どもたちの心の負担を軽くし、被災者が一日も早く生活を立て直せるよう、200万円を目標に緊急募金を行っています。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。被害の詳細は本紙7頁をご覧ください。



台風による洪水で倒壊した家屋 緊急物資を受け取る被災者たち

■銀行口座への振込

三井住友銀行 西荻窪支店 / 普通預金口座 0920355
口座名 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン
※振込人のお名前の前に「24」とお書きください。

■クレジットカードでのご寄付

チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページからお申し込みください。
<https://www.childfund.or.jp/form/project.php>

チャイルド・ファンド・ジャパンは「認定NPO法人」に認定されており、ご寄付をくださる皆様には、寄付金控除など税の優遇措置を受けていただくことができます。

お知らせ 東日本大震災緊急復興支援の報告会・感謝会のお知らせ

本紙、5頁で東京と大船渡での報告会・感謝会をご案内しています。いずれも申込、参加費は不要です。どうぞご参加ください。

- 活動報告会(東京) 3月16日(土) 14:00~17:00
渋谷ヒカリエ11F カンファレンス Room1104
- 活動感謝会(岩手) 3月20日(水・祝) 13:00~17:00
大船渡市民文化会館(リアスホール) マルチスペース

お願い 書き損じた年賀状が子どもたちの学校設備に変わります!

ネパールの子どもたちが楽しく学べる学校環境を整備するため、書き損じハガキを集めています。書き損じてしまった年賀状や未使用の切手を、ぜひお送りください。



新しい机とカーペットが整備された教室

【集めているもの】

- ・未使用の年賀状や官製ハガキ
- ・未使用の切手

【送付先】

〒167-004 東京都杉並区善福寺2-17-5
チャイルド・ファンド・ジャパン ハガキ係

※「書き損じハガキ」募集キャンペーンのチラシがあります。ご希望の方は募金グループまでご連絡ください。

お願い 『Dear My Sponsor』スポンサー募集キャンペーンについて

『Dear My Sponsor』スポンサー募集キャンペーンは、現在までに13名の方々から支援チャイルド増員のお申込みをいただきました!スポンサーシップ・プログラムにより、チャイルドは勉強だけでなく、保健や医療サービスも受けることができます。ご興味のあるご友人、ご家族に、スポンサーとしてチャイルドを支援する喜びをぜひ、ご紹介ください!資料をご希望の方は、募金グループまで電話/03-3399-8123 平日 9:30~17:30



お知らせ 領収証の発送が完了しました

2012年にお寄せいただきましたご寄付の領収証の発送が完了しました。スポンサーの皆様には、1年間のご寄付を合算した額でお送りしました。プロジェクト・サポーターの皆様には、ご寄付の度に領収証をお届けしています。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、国税庁長官より『認定NPO法人』として認定されていますので、お届けした領収証は、確定申告の際に寄付金控除の申告用としてご利用いただけます。

ご不明な点がございましたら、会計・庶務グループまで電話/03-3399-8123 平日9:30~17:30

ご報告 チャリティゴルフ大会のご報告

第8回スマイリング・パートナーズ チャリティゴルフ大会が行なわれました(2012年11月28日 主催/スマイリング・パートナーズ チャリティゴルフ大会実行委員会 代表篠塚和典さん)。256名がご参加くださり、プレイやオークションを楽しんでいただきました。このゴルフ大会を通して、25名のチャイルドをご支援いただいています。



優勝者(中央)と篠塚和典さん(右)、賞品を渡すデルタ航空の高橋雅治さん(左)

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ <チャイルド・ファンドより SMILES> 2013年3月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

<デザイン>
モステザイン研究所
<印刷>
有限会社東西印刷

